

「平成26年度自閉症支援セミナー（基本コース）」に参加して

1. 日 時 平成26年9月13日（土）午前10時～午後5時
2. 場 所 青森県観光物産館アスパム6階「(八甲田)」
3. テーマ 「自閉症の特性と理解」
4. 講義内容

講師／前田 淳裕氏 NPO法人夢 発達障害サポートセンターYou Me

（1）「自閉症の特性と理解」

自閉症スペクトラムのある人の「人となり」を知る際に、間違っただけの思い込みがある状況から、わずかなら正確な情報を入手するまでの過程で自閉症スペクトラムの支援に携わる際の用語や考え方について演習を行った

- ・「自閉症スペクトラム」の人たちを普通の人にすることが目的ではない。
- ・生活全般に目を向けた支援・指導が必要
- ・生活の質に目を向けた支援・指導が必要
- ・自分でわかって、自分で動ける支援・指導が必要

（2）事例紹介「放課後等デイサービスにおける事例」

ア 講師／前中 貴次氏 事例提供 デイサービスセンターすこやか

放課後等デイサービスでの個別支援についての取り組みの内容

障害区分に基づいた、支援基準手順を職員が周知することで、個別支を円滑に行うことができる。

<スタッフが重要視していること>

できる・・・できることなので、手を抜かずにやること。

できそう・・・できそうだと判断できる力こそ、求められる姿勢。

できそうなことは、発想力を生かしてどんどん提案すること。

難しい・・・難しいと思ったことは早めにあきらめること。

反則・ドーピングしてまでやることはない。

- ・出来ること、小さいことから変えていく。
- ・特定の支援者だけが支援するのではなく地域で支援をし、地域で貢献する団結力が必要。
- ・職員が自分の仕事を周り（家族・友人等）に知らせ、障害者に対する理解を得る。

イ 講師／秋元 知里氏 事例提供 児童デイサービス はあと

「児童デイサービスはあと」での放課後等デイサービスの1日について事例紹介

①送迎 ②荷物をロッカーに置く ③手洗い ④自由時間 ⑤グループ活動 ⑥家に帰宅

①～⑥の項目について特性から考えると

■気づけなかったことに気づける

■子供が何に困っているのかがわかる

■チームで客観的な話し合いができ、共通認識がもてる

→今、どこに向かい、何をしたら良いのかイメージがもてる

ウ ビデオワーク演習「指示理解のチェック・領域別アセスメント」

講師／分枝 篤史氏 障がい者支援施設 妙光園

事例 小学生低学年 自閉症

掃除の仕方について（床拭き・トイレ掃除）道具の場所がわかるか、洗剤は適量か等ビデオをみて5項目の評価を行った。

- ・支援のスタートはその人を知るアセスメントから始まる。
- ・その人を知ると同時に、自閉症の特性を軸に考えながらみていくことが、大事である。
- ・活動のアセスメントをする前に、実際自らやってみて工程や行う時のポイントを抑えてアセスメントする。
- ・一人でできるようになっても、日々アセスメントし、本人に合わせ、微調整していかなければならない。

5. 所 感

今回研修に参加し自閉症スペクトラムのコミュニケーションの特性や想定される行動などについて知識を深めることができました。

「自閉症スペクトラムの特性と理解」をテーマに事例を通し、3カ所の事業所の指導・支援内容を知ることができました。

3カ所の事業所で共通していること

- ① 基本を忘れない支援
- ② 支援の在り方を変えずにしっかり忠実な支援する。
- ③ 障害者を治すのではなく、一人々の特性にあった支援（方法・内容）を行っており、各事業所の理念方針が日常の障がい者支援に反映していると感心したと同時に、自分も日常の支援の中で活かしていきたいと感じました。

自閉症スペクトラムを理解するためには、相手を知り、同じ障害でも個人にあった支援をして行き、自己選択・決定をしてあげられるように導くことが重要であり、スタッフ全員のかかわり方が統一していなければならないことに気づきました。

就労継続支援A型／みのり
生活支援員 葛西